

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200140		
法人名	株式会社 総合医療		
事業所名	グループホーム そよかぜ		
所在地	徳島県鳴門市瀬戸町明神字上本城77-2		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670200140&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供に努める」に沿って、日ごろの支援に取り組んでいる。事業所は、周囲を海に囲まれており、明るい日差しが差し込んでくる環境に位置している。利用者は、日ごろから自然と接する機会が多く、建物周辺の散歩を楽しんでいる。歩行の困難な利用者は、景色を楽しみながら廊下を散歩している。また、利用者の希望に応じ、テレビや新聞の情報を参考に、ドライブなどの外出に出かけている。事業所内には、利用者のつくった作品や写真が掲示されている。利用者一人ひとりの状況に応じたトイレ介助に取り組んでいる。職員の平均年齢は比較的高く、利用者と職員は母と娘のような雰囲気の中、日ごろの生活を和気藹々と送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周囲には、穏やかな内の海等の自然が広がっており恵まれた環境に位置している。毎日、事業所のテーマソングにあわせた体操から一日が始まり、般若心経や童謡、歌謡曲等を楽しんでいる。利用者は、建物の周辺を毎日散歩している。天候等の理由により、外出が困難な場合も、玄関先で外気浴を季節を感じている。併設の通所介護事業所の看護師が毎日の健康状態を確認している。事業所は、利用者の入浴の順番等にも配慮し、楽しく入浴できるよう工夫している。また、排泄チェック表を活用し、トイレでの自立した排泄を支援している。水分・食事摂取量の確認を行って過不足のないよう配慮している。市の介護相談員やポイント制のボランティアの受け入れに努めるなど、積極的に地域との関わりを深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、「利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスに努める」という理念を共有して実践に繋げている。	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を理解したうえで、事業所独自の理念をつくって実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、町内会の集まりや小学校の運動会等に参加している。町内会の除草活動や清掃活動に参加し、地域の人との交流に努めている。	事業所と地域との繋がり的重要性を認識している。管理者は、町内会の集まりに毎回出席し、会議内容を職員や利用者へ伝達している。利用者や職員は、町内の清掃活動等に参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設のデイサービスを利用している地域の高齢者の方との交流を深めている。散歩や外出時にと挨拶を交わしているが、日ごろの業務に追われ、十分な取り組みはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告を行い、理解を得られるように努めている。様々な意見を出していただき参考にしている。	2か月ごとに運営推進会議を開催している。利用者や家族、地区老人会会長、町内会会長、地域包括支援センター職員、市職員、市介護相談員、管理者、職員のメンバーで構成し、事業所の現況や評価への取り組み、研修報告等を行っている。また、防災等についても話し合いを行い、様々な意見交換に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書の提出時等に説明したり、直面している課題について意見をいただいている。	管理者は、市担当窓口へ報告書等を持参して事業所の課題や取り組みを説明し、アドバイスを貰うなどして、連携を図っている。電話やFAXを使用せず、直接出向いて話すようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の弊害について理解している。事業所は建物の2階に位置しており、入口が急な階段のため、転落防止等の安全対策の一環として玄関を施錠している。運営推進会議に議題として提出し、協議いただいたこともある。	玄関は施錠していないが、階段の出入り口は安全対策のために施錠している。出て行くこととする利用者には職員が付き添って歩くなど、利用者一人ひとりの特性をつかんだケアに取り組んでいる。	階段の出入り口の施錠について運営推進会議で協議し、「現状のまま安心を優先とする」とされたが、今後はより質の高いサービスの実現に向け、施錠しなくても安全を確保できる支援について検討された。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学習し、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習し、必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、不安や疑問がないか尋ね、十分な説明を重ねたうえで、理解や納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から要望などが出たときは、職員間で話し合っている。出された要望等は、連絡ノートに記入して運営等に反映している。	利用者や家族から出された要望等は、連絡ノートや個人記録に記入し、職員会議や運営推進会議等で話し合っている。また、経営者に報告し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全体会議を開いて職員の意見等を聞く機会を設け、サービスに反映している。	毎月、全体会議を開催している。経営者や併設の通所介護事業所の所長も出席しており、職員の意見や提案を聞いて事業所の現状を把握し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況などを理解し、職員一人ひとりが向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交替で研修を受ける機会を設けているが、夜間の研修もあるため、参加できていないこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価や運営推進会議で交流しており、事業所運営や介護に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等から話を聞いたり、本人に会って話を聞くなど、信頼関係を築きながら受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込み時や入居決定時などに家族と連絡をとって、困っていることや不安なことなどをよく聞き、事業所での生活の不安をなくすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に応じて、一階のデイサービスの利用や他事業所等の利用をすすめることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築いている。互いに助け合ったり一緒に考えたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と話し合いを重ねて協力し合い、ともに支えていけるように取り組んでいる。請求書を渡すときに状況を説明したり、電話をすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所やお店、医療機関等との関係が途切れないように支援している。地域の集まりにも参加している。	併設の通所介護事業所の利用者の来訪や馴染みのお店に買い物に行っている。利用者の望む馴染みの関係が続けられるよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、思いやりの心で接してくれることもある。利用者が孤立することのないように、共同作業やゲームなどを通して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所に至った利用者を定期的に面会し、希望をもてるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活状態や暮らし方の希望を本人や家族から聞き、意向に沿うように努めている。集団レクリエーションなどに誘っている。	日ごろの暮らしの中で、利用者の言葉や表情等から意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、家族から意向等を把握している。また、他の利用者から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に、本人や家族から生活歴等を把握し、本人を知るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ファイルや申し送りノート、連絡ノート等で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の見直しを行い、本人や家族に意見を聞き、現状に応じた介護計画となるよう取り組んでいる。	あらかじめ設定した期間ごとに見直している。利用者の状態等の変化や家族の要望に応じた計画の作成に努めている。日ごろの気づきを記録して掲示し、利用者一人ひとりの介護記録に記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノート、連絡ノート、朝夕の申し送り等で情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や要望に応じて、1階のデイサービスを利用している利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域の婦人会よりお接待に招待いただいている。また、安心して周辺の散歩ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時や通院時に、利用者と担当医の間に立って支援を行っており、信頼関係を築きながら治療が受けられるように取り組んでいる。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は、家族の同行を基本としているが、希望や状況に応じて職員が代行している。通院日誌に記入し、家族に電話で連絡したり、直接自宅を訪問して経過等の報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月～土の午前中に、1階のデイサービスの看護師がバイタルチェックを実施して、利用者の理解にも繋げている。発熱や状態の変化が見受けられた際には相談を行いアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院に至った際には、なるべく利用者のことを理解していただけるように説明している。また、お見舞いに行き説明をし、理解促進に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身能力が低下してきた時には、家族に状態の説明等を行っている。また、そのつど家族や主治医と話し合っている。事業所でできること、できないことについて話し合い、理解を得られるように取り組んでいる。	事業所でできることとできないことを家族に説明している。身体状況等の変化に応じ、家族や主治医と話し合っ対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の体調が急変した時には、担当医や看護師の指示により、救急病院や協力医療機関等に搬送しており、初期対応の判断体制を構築している。また、応急手当を含む初期対応の研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の職員の立会いのもと、火災や地震、夜間想定避難訓練を実施している。利用者にも参加してもらい、避難方法を身につけるようにしている。町内会の役員に協力をお願いしている。	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議で協議し、町内会役員との協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの深い地元の言葉で話しかけている。利用者一人ひとりを敬い、尊重する言葉かけを心がけている。	管理者や職員は、理念の「利用者の人格の尊重」を理解し実践している。その人らしさを大切にし、地元の言葉で話しかけ、利用者が自己決定しやすいように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるように支援している。家族や職員が、本人に思いや気持ちを聞いたり、理解してもらえるように話している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望する場所に出かける機会をつくっている。一人で過ごしたいときには本人の意思を尊重し、時間を見計らって声かけを行い集団の中へ誘導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力をお願いし、好きな色の洋服を着たりしておしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳等に参加してもらっている。職員と話合いながらしている。	日々のメニューは、利用者と職員が相談して決めている。同じテーブルで楽しく食事をしている。お箸の持ち方を忘れた方に、隣に座った利用者が声をかけて食事をとるなど、職員は利用者同士の相互扶助を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量を記入している。食事の摂取状態が良く無い時は、医師に相談したり栄養食品を使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、歯磨きの仕方や口腔状態のアドバイスを受けており、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	トイレでの自立した排泄を大切にケアを行っている。利用者一人ひとりの身体機能に応じて、紙パンツやパットを使用している。ポータブルトイレを居室に設置している利用者もいるが、夜間のみ使用となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や足上げ、体操等で体を動かしている。また、食事を工夫したり、医師に相談したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴を実施している。入浴を好まない方には、昼食後、睡眠を取られる前に一人で入浴していただいたり、最後に入浴していただいで入浴の間隔が開かないようにしている。	毎日入浴できるようにしている。浴槽は広く、仲の良い方は二人で入浴することもある。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、声かけを工夫したりして利用者一人ひとりに応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調等により、午後の睡眠を促している。また、散歩やドライブに行ったり、車椅子を押して廊下を歩いている。なるべく、日中は眠らないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの服薬の目的等を理解している。服薬の変更が合った時には、連絡ノートに記入している。往診ノートや申し送りノートに体調の変化を記入し、往診や通院時に参考にしていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、利用者一人ひとりを理解し、個別の役割や手伝い、手芸などの楽しみごとの支援をしている。洗濯物干しなどを引き受けてくれる利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や状態により、散歩を楽しんでもらっている。テレビや新聞の情報から、ドライブなどの外出をすることもある。ボランティアに協力していただき出かけたこともある。	天気の良い日には、毎日のように事業所の周りを散歩している。歩行が困難な利用者には、車椅子や歩行器等を利用して散歩を楽しんでいる。また、季節ごとの花見に、ドライブを兼ねて出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している利用者がいる。混乱が生じたとき等には、事業所で一時的に預かるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や年賀状を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲を海に囲まれ、明るく光がよく入る。快適に過ごせるように室温には十分配慮して居心地よく過ごせるようにしている。	居間は食堂と同じフロアに位置し、広くて明るい空間となっている。大きな窓からは小鳴門の海が見え、近隣で生活していた利用者は自宅と同じようにのびのびと生活している。色紙でつくった輪等の作品を天井近くに飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下に、テーブルやソファを設置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族にお願いしている。位牌を持ち込んでいる利用者もいる。	全ての居室が畳敷きとなっている。また、自分のベッドを持ち込んでいる利用者もいる。職員とともに、きれいにベッドを片付けたり、衣装ケースを積みあげている方もいるが、清掃は十分に行っており清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力を活かして、タオルたたみやモップ拭き、洗濯物干し、おしぼり巻き等をしていただいている。廊下に手すりを設置しているが、歩行の不安定な利用者は歩行器やシルバーカーを利用している。		